

与野学院日本語学校

総合所見〔日本語教育機関教育活動評価委員会〕

【達成状況】

コロナ禍の2021年5月現在の在籍者数は、ベトナム49人、中国15人、ロシア4人、タイ4人、インドネシア3人、ミャンマー、トルコ、香港各1人の78人(定員300人)となっているが、他分野に転職した非常勤教員などもいて、在籍する教員には担当授業が確保されている。

日本語・繁体中国語・簡体中国語・タイ語・英語・ベトナム語版の『入学案内』、『重要事項説明書』等の冊子に、入学までの手順や経費が丁寧にまとめられている。それに留まらず、学校運営全般に関する精緻な規程・マニュアル・手順書等が整備されており、高く評価できる。

学生向けにはオリエンテーションのPPT資料、授業内社会適応教育等によって学校生活の円滑化が図られ、また、教師向けには進路指導、健康衛生管理及び健康診断規程等を整えることで、7割以上の専門学校進学、1.5割近くの大学進学に結びついている。疾病や交通事故への対応、入管法上の留意点についても、資料をもとに丁寧な指導がなされている。過去3年間、所在不明者、犯罪関与者の発生はなく、途中退学者も年に1、2人程度であり、一般的に適正な学生支援・指導等が行われていると思われる。

教職員の職務内容は校務運営及び職務権限規程によって明確化され、教員・職員研修規程も定められている。教員評価は、まず教員自らが自己評価シートに書き込む形になっており、その評価項目も妥当なものが用意されている。

【課題・改善要望等】

学校の自己点検・評価を年に1回行うだけでなく、評価結果をホームページ(HP)上で、公表することが求められる。

教職員の研修に関して規定が定められているが、外部研修会・セミナーへの参加経費の助成、得た知見の共有システムの確立などで、教職員研修のさらなる充実を期待したい。

Googleフォームによる49項目に及ぶ卒業生アンケートが行われているが、より簡素化した、答えやすい在校生アンケートの形にまとめ、実施時期も学期ごとに施行することを期待したい。在校生から何らかの改善提案があった場合、実現の可否をフィードバックすることで、学生の学校に対する積極的な関わりが得られよう。

教員の自己評価に関しても、提出された自己評価結果と、上司による授業評価シートをもとに、教務主任、あるいは、校長との話し合いを持つことで、各教師の課題の整理と同時に長所の育成も図られる。好事例を共有することは、個々の教師のエンパワメントに結びつくと同時に、学校の授業活動全般の強化にも結びつくと思われる。

教育課程に関して、各レベルの内容と到達目標が明確に示され、体系的な編成がなされているが、1.9年コースの修了時の到達レベルを2年コースと同一とする場合は、入学時の日本語レベルの調整が必要となろう。1.6年コースの修了時のレベルが低い場合は、進学への影響が避けられない。入学時レベルと修了時レベルの見直しを期待したい。

現在授業記録は手書きでなされ、教員同士の授業引継ぎなどはメールやLINEによってなされている。二度手間を避けるだけでなく、コロナ禍の終息が不透明でもあり、情報管理と記録の利用などの観点からも、既に構想にあるIT化の加速が望まれる。



